

**令和4年度第2回小牧市児童館運営委員会
会議要旨**

日 時	令和4年7月27日（水）午前10時～午前11時40分
場 所	まなび創造館 研修室（ラピオ5階）
出 席 者	<p>【委員】7名（※敬称略） 植松浩二郎、中野江美子、冨嶋恵子、長谷川留美子、水野圭一、花山佳世、沖本喜久江</p> <p>【事務局】14名 こども未来部長、こども未来部次長、指導保育士、多世代交流プラザ所長、多世代交流プラザ事業推進係長、多世代交流プラザ児童館担当、こまきこども未来館副館長、味岡児童館長、篠岡児童館長、小牧児童館長、小牧南児童館長、北里児童館長、西部児童館長、大城児童館長</p>
会議資料	<p>次第 資料1（令和3年度児童館・子育て支援室利用実績報告書） 資料2（令和3年度児童館行事別利用人数） 資料3（小牧市児童館指定管理者モニタリング評価シート） 参考資料（令和4年度小牧市児童館のしおり）</p>
会議内容	<p>1 こども未来部長あいさつ 2 議事 （1）令和3年度児童館・子育て支援室実績報告について （2）令和4年度小牧市児童館指定管理者モニタリングについて 3 その他</p>
会議要旨	<p>1 <u>こども未来部長あいさつ</u> ・夏休みに入り、こまきこども未来館をはじめとする市内の児童館にも、多くの子ども達が来館している。 ・市内の児童館では、これまで3部入替制での運営を行っていたが、夏休みという長期休暇の間の子ども達の居場所を確保するため、2部入替制に変更し、感染対策を引き続き徹底しながら、様々な悩みを抱えた子ども達がいつでも気軽に来館できる日常拠点となるよう努める。 ・本日の会議は、昨年度の各児童館の実績報告と、モニタリングの結果を受けての評価についてご議論いただく。忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p>2 <u>議事</u> <u>（1）令和3年度児童館・子育て支援室実績報告について</u> 資料1（令和3年度児童館・子育て支援室利用実績報告書） ・令和3年度は、令和2年度に引き続き緊急事態宣言や蔓延防止措置が度々発令され、利用制限、講座や催しの縮小など、厳しい状況であった。 ・この様な中でも、少しでも多くの方に来館頂けるよう、各児童館において、きめ細かな清掃、消毒作業など、感染予防対策を行うことで、全館利用人数は、昨年度より増となっている。 ・今後も、出口の見えない状況の中で、児童館を開館することの難しさを身に沁みながらも、こども達の居場所としてあり続けるために、安心して過ごせる環境に配慮しつつ、「今できることは何か」各館において知恵を絞っ</p>
事務局	

ていく。

- ・支援室も児童館同様に新型コロナウイルスの影響で様々な制限があった。
- ・利用者の中には、コロナ禍でますます孤立し、子育ての不安や負担を感じているお母さんも少なくない。また、発達や発育の相談も低年齢化しており、その思いに傾聴し、各関係機関や施設につなげる役割を担ってきたが、今後もこの傾向は増していくと考え、体制作りを努めていく。

資料2（令和3年度児童館行事別利用人数）

【こまきこども未来館】

- ・令和3年度は「遊びをとおして友だちとの輪を広げる」を目標に様々な行事を行った。
- ・児童センター時代から人気のある講座は、密集状態を避けて人数制限などの感染防止対策を実施しながら複数回開催するなど、なるべく多くの児童が参加できるよう工夫して行った。
- ・小牧市の中央児童館として、市内の各児童館や市内企業、市民活動団体などと連携し、「つながる」をテーマにこまキッズフェスタを開催。来館した子ども達に様々な遊びや体験を提供した。
- ・市内外から多くの児童が来館するため、未来館で出会い、親交を深める場面もよく見られる。
- ・今後も、体験ひろばを中心に、未来館でしかできない「未来リテラシーを育む」講座や体験活動を展開していく。

【味岡児童館】

- ・昨年度より現在の法人に運営が変わったが、これまでの味岡児童館の良さを守りながら、地域で暮らす方々の居場所となり、子育ての核となることを目指している。児童館としては、子ども自らが意見を述べたり、創り上げることができるよう、関わる職員の研修などにも取り組み、新たな児童館づくりに注力した。
- ・新型コロナウイルス感染対策のため、人数制限等を設けての運営であったため、長期休暇以外は大きな利用者の増加はなく、普段来館する顔ぶれはほとんど変わらなかったが、その分子どもたちの置かれている環境や背景にも気づきやすく、個人とじっくり向き合うことができた。
- ・支援室には初めて利用される方も多く、育児の不安や心配を訴えて来館される母親も多い。支援室が地域に必要とされていることを改めて感じた。
- ・高校生からの提案もあり、感染状況を見ながら3月中旬から中高生の居場所づくりとして、週1回開館時間を延長した。大人にやらしてもらおうではなく、子どもたち自ら児童館の活動や運営に関わっていける環境に重きを置くことができた。

【北里児童館】

- ・コロナ禍に利用者に何が提供できるかを考えながらの一年であった。
- ・感染拡大が落ち着いてきたのと合わせて、利用者数も少しずつ戻ってきた。特に小学生の来館が戻ってきたのが嬉しい。
- ・地域の子育て親子や児童が楽しめる行事を目指し、少しでも来館のきっかけになるよう、一つ一つの行事における参加者の満足度を上げることに取り組んだ。
- ・規模の大きな行事を開催するよりも、季節のイベントや毎月の工作イベン

トなど、小さくても一つ一つの取組みの中で児童との関わりを多くとれるよう考えて実施した。

- ・2年ぶりに開催した夏まつりには、非常に多くの申込みがあり、残念ながらお断りするほどであった。今後も、地域に必要とされていることを大切にしながら、北里児童館の魅力をさらに発信できるよう努めていく。

【大城児童館】

- ・「楽しさのシェアリング」を目標に年間計画をしたが、いくつかの行事についてはコロナ禍のため開催を中止した。
- ・3月にわらべかんまつりが開催できたことで、多くの地域のサポーターの方々にも来館いただき、顔を合わせることができた。
- ・子育てを多世代でしようという取組みの中で、孫を育てる祖父母や里帰り出産のお母さんなどにご利用いただいた。
- ・外国籍の方の利用も定着してきており、地域のキューバ出身の方がダンスを指導してくださるなど多文化交流の取組みをさらに進めることができた。

【小牧南児童館】

- ・令和2年度からのコロナ禍による感染対策で、来館したものの入場制限で入ることができないなど、誰でも気軽に来館することができる児童館本来の機能が失われつつあることから、児童館は子どもに関わる大切な受け皿でなくてはならないとして、目標に掲げた。
- ・定員で入館できなくても、職員が丁寧に事情を説明し、併設するコミュニティセンターの一角を借りて、塗り絵や簡単な工作を提供するなど、少しでも児童館に来て良かったと思ってもらえるよう対応に努めた。
- ・これまで毎年地域と連携し夏祭りなどの大型行事を行ってきたが、感染拡大の影響で実施できなかったが、3世代交流会は人数を制限するなど、難しい運営を余儀なくされながらも、「子どもたちのために」地域の協力もあり無事に実施することができた。
- ・自転車の補助輪はずし教室はとて人気があり、校区外からも口コミで申し込まれる方がいる。補助輪をはずして乗れるようになることだけが目的ではなく、乗れるようになってからの交通安全に重点を置いて実施している。
- ・0歳から3歳の利用が増加したことが影響してか、中高生など高学年の利用がコロナ禍前と比較し大幅に減少した。すべての児童にとって開かれた児童館であるように、児童館閉館後に特別開館を実施し、中高生の居場所づくりを実施した。
- ・児童館という狭い空間の中で、どのように異年齢交流を促していくのか、中高生の居場所をどのようにつくっていくのか、当面の課題として引き続き取り組んでいきたい。
- ・支援室利用者対象に、父親の育児支援事業を開始し、母親向けイクメン講座や父親向け育児講座、父と子のふれあい講座を実施した。
- ・今後も子どもや保護者、地域の拠点として、より細やかな支援を継続して行い、誰もが気軽にふらっと立ち寄り、すべての方がほっと一息つけるような居心地の良い空間を目指していく。

【西部児童館】

- ・15周年を記念し公募キャラクターを募集。地域の小学生の作品が選ばれたので子どもたちの興味も増した。一緒に親しみやすい児童館にしていきたい。
- ・コロナ禍で中止となる行事もあったが、開催規模を縮小したり、密集状態にならないよう工夫したりと、職員間で相談しながら運営してきた。
- ・職員の手づくりが多く、利用者からは「こんなものが玩具になるんだ」「作り方を教えて」と声をかけられる。
- ・地域の保育園から牛乳パックを提供してもらい工作に活用したり、小学校からは稲わらを提供してもらい、しめ縄づくり講座を実施した。
- ・地域から材料や廃材を提供してもらい、職員の工夫やアイデアで、地域の子ども達に還していく、循環型の運営ができてきた。
- ・リユースの量も多い
- ・初めて実施した取り組みでは、「ナイト児童館」「線の砦」が好評だった。次年度も開催してほしいとの声があるので続けていきたい。
- ・小学生から要望が多かったボードゲームを揃えた。ルールを教え合う様子が見られ、子ども同士が関わるきっかけとなっている。
- ・子育て支援室は、利用者の意見を聞きながら居心地のいい支援室にし、育児が楽しいと思えるお手伝いができればと思っている。

【小牧児童館】

- ・コロナ禍の中、児童館として様々な制限をしながらの行事開催となった。
- ・季節行事は募集開始と同時に定員に達する事が多く、残念ながらお断りすることもあったが、行事だけでなく日常利用を満足してもらえるよう、常設の工作を子どもの自主性を育むものにししたり、一度に制作できる個数の制限をなくすなど、子どもや保護者など利用者の声を聴き、反映することで、日々の児童館活動の充実を心がけた。
- ・乳幼児親子の利用が多く、悩みを打ちあける利用者もあるため、職員は来館される方すべてに目を配り、悩みや不安をしっかりと傾聴した。
- ・小中学生は、友達と一緒に来館したり、関わりを求めて来館したりと様々だが、学校や学年関係なく、みんなで遊ぶ姿が見られた。気軽に自分をさらけ出せる場所として児童館を利用してもらえたらいい。
- ・昨年度初の取組みとして、ナイトサファリを児童館で実施した。こどもプランナーの手伝いもあり利用者から大変好評だった。職員も参加した子どもたちも共に成長できた。

【篠岡児童館】

- ・地域連携では、コロナ禍で行事開催を制限する中、地域のおやじの会のサポートによるコンサートを6回開催できた。令和2年度には中止となった近隣小学校のまち探検という総合学習への協力も実施できた。
- ・地域の方々のサポートがあるからこそ、活動の幅が広がり、共に成長していけると改めて実感した一年だった。
- ・子育て支援室では、子育てで孤立しないよう寄り添い、一緒に子どもの成長を見守ることを大切に、ママ同士の交流や情報交換の場となるよう努めた。
- ・小学生にとっても、気軽に利用できる場となるよう、日々の関わりを大切にし、ひとりで来館した児童も、職員との関わりを通じて、初めて話す子

	<p>や異学年とも遊ぶ姿が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生は学習室利用はあったが、消毒の都合上、カードゲーム等の利用の制限があるなど、十分に利用することができないなどの課題があった。今後は中高生にとっても気軽に利用できる居場所となるよう努めていく。 <p>〈質疑応答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援室について、利用実績報告書で利用人数は把握できるが、主な相談内容や活動内容など、口頭での説明のみで詳細資料がない。 ・各館の活動がどのように利用人数に結びついているかなどがじっくり読み取れない。 ・小牧市は子育て支援に注力しているし、最近では児童館活動の中でも子育て支援室の活動は大変重要になってきていると思う。そういう背景も踏まえ、報告様式を見直したらどうか。
事務局	⇒ご指摘を踏まえ委員にわかりやすい報告内容への見直しを検討する。
植松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に比べ、どの児童館も令和3年度の子育て支援室の利用者が増えているが、味岡児童館だけ1割近く減っている。何か具体的な要因はあるのか。
事務局	⇒コロナ禍で子育て支援室の利用を制限するなど、館内が密集状態にならないようにしている。それでも利用を希望する親子は多いため、乳幼児の遊び場所を館内に2箇所増やした。結果として、子育て支援室を利用しなくても、館内に遊べる空間ができたことで、利用者の分散が図れ、子育て支援室の利用人数が減少した。館全体の利用者としては他館と同じように増加している。
植松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で運営は大変だったかと思うが、その中で気づいたことや良かった点はあるか。
事務局	<p>⇒感染対策をしながらの運営は大変であったが、そういった環境の中で利用者いかに気持ちよくご利用いただくかを職員間で話し合ったり、工夫する機会が増えたことで、業務の効率も上がり、職員間のチームワークや協力関係が深まった。</p> <p>⇒感染対策で人数制限をしている中で利用者数が増えているのは、時間帯ごとに利用できる人数は決まっているが、支援室利用者が別のフロアを利用している時間帯に、別の入りたい方に支援室を利用いただくなど、柔軟に対応したことで結果として利用者増となった。様々な制約がある中で、どうしたら密集状態にならないか等、利用者目線に立ち、児童の最善とは何かを改めて考えることができた。ルールありきでは本当に必要なニーズに応えられないことを再認識した。</p>
事務局	<p>(2) <u>令和4年度小牧市児童館指定管理者モニタリングについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング実施の趣旨は、市が指定管理者に対して求める事項が不履行

となっていないかを所管課が見極めた上で、よりよい管理運営が実施されるよう、委員の皆様にも別の視点からのご指導や助言をいただく体制を築くためである。

- ・評価シートの「2 評価結果の内容」には、評価の項目、視点を示し、所管課評価については、職員が各児童館を訪問し、現地で実際に施設の状況や書類の確認、聞き取りを行い、その結果を評価として記載している。
- ・特記事項には、特筆すべき良い取り組みや明らかに改善を必要とする事項などを併せて記載し、所管課評価及び特記事項を踏まえ(1)運営業務、(2)維持管理業務、(3)サービスの質の区分ごとに評価を行い、その区分評価にいたった経緯等を記載している。
- ・評価シートの「区分評価に対する運営委員会コメント」は、所管課が行った評価内容に対する運営委員会の意見等を記載する。
- ・「3 評価の基準」について、所管課評価では、4～1の4段階で項目ごとに評価する。それぞれの区分評価では、項目ごとの評価を基にし、(1)～(3)の区分ごとに平均値を算出しA～Cの3段階で評価する。
- ・総合評価は、1次評価の報告と児童館からの活動報告資料をもとに、必要であれば質問を行い、運営委員会の中で、基準に従い、ABCの3段階評価をしていただく。
- ・「優れた取り組みが多くみられる」と判断されれば「A」、「適切に実施されている」と判断されれば「B」、多くの取り組みに対して改善を要する」と判断されれば「C」とする。

【味岡児童館】[資料3-1にて説明]

《質疑応答》

植松委員

- ・はじめてセットとは何か。

事務局

⇒館だよりやパンフレットなどの利用案内をまとめたもの。初めて利用する方に配布し、トイレの場所や子の年齢に合わせたフロアの利用説明などを職員がわかりやすく説明している。

富嶋委員

- ・地域との連携で、学校行事への参加をきっかけに誉高校と関わりができたところ。大変いい取り組みだと思うが、その経緯について教えてほしい。

事務局

⇒地域の様々な業種の方が学生に社会課題を提供し、社会に生きる一人としてその解決に取り組む、誉高校の「社会人講話」という取組みに児童館職員として参加したことをきっかけに、インターンシップを引き受けたり、ボランティア部から児童館で活動したいと依頼を受けるなど、総合的に関係を作ることにつながりを強固してきた。今年度からは、なかなか児童館に足を運ぶことが少ない中高生に、遊び場だけでなく、学習の場や休息の場として、どうしたら利用してもらえるのか、一緒に取り組んでいる。

総合評価 「B」

- ・運営は適切に実施されている
- ・地域とのつながりは児童館にとっては大切であり、課題である中高生の利用を、地域の高校生と一緒に取り組むなど、地域とのつながりを生かした

<p>長谷川委員</p>	<p>運営は大変評価できる。</p> <p>【北里児童館】〔資料3-2にて説明〕 ≪質疑応答≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北里小の放課後こども教室では、昨年度、北里児童館にお願いし、クリスマス会を小学校で出張開催してもらった。今年度もハロウィン行事を出張開催する予定であり、十分に地域との連携がとれている。
<p>水野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用で緊急連絡がしっかり伝わるようにしているとあるが、具体的に緊急連絡が必要な場合とはどういう場合か。
<p>事務局</p>	<p>⇒台風や大雨などで、クラブ活動が急遽中止となった場合などである。そのような厳しい状況の中でせつかく来館したのに中止だったとならないよう努めている。</p>
<p>植松委員</p>	<p>【総合評価 「B」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営は適切に実施されている ・地域の小学校へ出張講座や、SNSを活用しての利用者への配慮など、柔軟で細やかな対応は評価できる。 <p>【大城児童館】〔資料3-3にて説明〕 ≪質疑応答≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃に対して利用者から高い評価をされているとの事だが、どのように確認しているのか。
<p>事務局</p>	<p>⇒利用者アンケートのコメント等で確認している。</p> <p>【総合評価 「B」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営は適切に実施されている ・多文化共生という小牧市特有の課題に対して積極的に取り組んでおり、国籍に関わらず地域に暮らす誰もが気軽に利用できる児童館運営は評価できる。
<p>水野委員</p>	<p>【小牧南児童館】〔資料3-4にて説明〕 ≪質疑応答≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の漏えい防止について、「データ化しない」とはどういうことか。
<p>事務局</p>	<p>⇒データで残すと漏えいの危険が増すため、基本的には紙ベースで金庫保管などで管理し、使用した後は適切に廃棄している。やむを得ずデータ化する場合は暗号化するなどの措置をとっている。</p>
<p>植松委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の個人情報とはどのようなものがあるのか。
<p>事務局</p>	<p>⇒講座やクラブ等の参加者情報、受付個票などがある。どちらも使用した後は適切に廃棄している。</p>

<p>富嶋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会とも交流や連携しているとあるが、詳しく教えてほしい。
<p>事務局</p>	<p>⇒小牧南児童館はふらっとみなみ内にあるが、ふらっとみなみには地域の自治会長も含む運営協議会がある。協議会のメンバーの中には、特技をお持ちであったり、子どもと関わりたい方もいるため、その思いを実現したり、児童館から地域の協力をお願いすることもある。また、応時中の健全育成会を通じて、学校行事やあいさつ運動などにも関わらせてもらっている。</p>
<p>植松委員</p>	<p>総合評価 「B」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営は適切に実施されている ・地域と積極的に関わることで活動の幅を広げ、利用者ニーズに丁寧に応える自主事業の充実は高く評価できる。 <p>【西部児童館】[資料3-5にて説明] ≪質疑応答≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校からの資材提供はどのようなものか。
<p>事務局</p>	<p>⇒地域の小学校で田植え経験を実施しており、稲刈り後の稲わらを提供してもらっている。提供してもらった稲わらは、しめ縄づくり講座で活用し地域の親子に還元している。</p>
<p>富嶋委員</p>	<p>総合評価 「B」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営は適切に実施されている ・地域の保育園や小学校から提供の資材を活用し、子ども達が新たなものを創り上げる循環型の運営は、西部児童館の大きな強みであり評価できる。 <p>【小牧児童館】[資料3-6にて説明] ≪質疑応答≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館が企画に参画する地域協議会の校区行事とはどのようなものか。
<p>事務局</p>	<p>⇒遊びを通じて地域とつながろうというテーマで企画している。0歳から100歳までの地域住民が参加できる行事を市民会館で開催する予定。</p>
<p>植松委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもの居場所として認知されているとあるが、数字では表れにくいと思う。評価した理由はあるか。
<p>事務局</p>	<p>⇒こども未来館と利用者の圏域が重複しており、未来館の開館で利用者が減少する懸念があったが、こども未来館で遊んだ後でも、小牧児童館に遊びに行くという子が多くいることから、地域の子どもの居場所にとっては、かけがえのない居場所となっていると判断した。</p> <p>総合評価 「B」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営は適切に実施されている ・地域協議会が企画する校区行事への参画や、学校を通じた地域の小学生へ

のイベント告知など、地域連携への新しい取り組みは大変評価できる。

【篠岡児童館】〔資料3-7にて説明〕

〈質疑応答〉

植松委員

- ・地域連携に秀でていると評価されているが、他地域と比べて具体的にどこが秀でているのか。

事務局

⇒篠岡地域は小中学校9年間を他地域からの編入なく過ごす地域であり、父兄同士の関係も深い。地域のおやじの会をはじめとする親世代が積極的に児童館行事の企画・運営にまで参画しているのは他の児童館にはないため、秀でていると評価した。

総合評価 「B」

- ・運営は適切に実施されている
- ・おやじの会など地域団体による参画、中学生ボランティアの運営協力など、地域サポートの充実は丁寧に地域と関わってきた成果であり評価できる。

事務局

3 その他

- ・「こまキッズフェスタ2022」を9月17日（土）に、こども未来館にて開催。各児童館がブースを出して、工作や遊びを提供。今年度はこまき市民交流テラス主催の「市民活動祭」や、ウィメンズネットこまきの「ワイワイっとまつり」、えほん図書館の「おはなしまつり」など同時開催し、小牧駅前フェスの一つとして実施する。
- ・次回の運営委員会は令和5年2月頃を予定。